

愛され続ける旭の名将

# 畠山重忠

## 二俣川で幕府軍（北条軍）に敗れる

北条時政と後妻・牧の方は娘むこで後鳥羽上皇の信頼厚く京都守護を任された平賀朝雅が畠山重忠の息子に恥をかかされた事をうらみ、重忠に謀反の疑いをかけます。元久2年（1205）6月22日、本拠地である菅谷の館（埼玉県嵐山町）から鎌倉に向かっていた重忠は、武蔵国二俣川で北条義時の率いる数万騎の幕府軍に行く手を阻まれました。

この場で潔く戦うと決心し、襲いかかる幕府軍に約4時間の激戦を繰り広げました。しかし幕府方の武士・愛甲季隆の矢に射抜かれると自害し、首を取られました。重忠の首を見た北条義時は、「重忠は無実の罪で殺された。今まで共に過ごしたことを思い出して、涙が止まらない」と嘆きました。



十其 場戦古ノ忠重山畠家六ノ峯々鶴村岡都郡筑都

「都筑郡都岡村鶴ヶ峯ノ六塚畠山重忠ノ古戦場」（都筑郡絵はがき 大正時代 横浜都市発展記念館蔵）

## 源氏の白旗は畠山重忠から

体操着の赤白帽やスポーツの紅白戦など、赤と白に分かれて戦うルーツは、源氏の白旗・平氏の赤旗あかにあると言われます。このうち白旗は畠山重忠が源頼朝にもたらしたものでした。

頼朝は石橋山の戦いで敗れた後、海に逃れて房総半島に上陸し、地元の武士・千葉氏らを味方につけます。

湾岸を北上した頼朝軍に、重忠は長井の渡し（東京都墨田区）付近で合流しました。

大軍勢になった頼朝軍が鎌倉に入る際、重忠は白旗を掲げて先陣をつとめます。頼朝がそれを咎めると、重忠はこれは畠山氏の先祖が頼朝の父・義朝より賜った縁起の良い旗だと述べます。この時から源氏の旗は白旗になりました。

愛され続ける旭の名将

# 畠山重忠



## 畠山重忠の略年表

- 長寛2年(1164) 畠山重忠が武蔵国畠山荘(埼玉県深谷市)で生まれる。
- 治承4年(1180) 源頼朝が伊豆国で挙兵するも、石橋山で敗れる。重忠は、房総半島を経て武蔵国に入った頼朝軍に合流。鎌倉入りの先陣をつとめる。
- 寿永2年(1183) 平氏は京都を逃れ、福原の都(神戸市)に至る。
- 元暦元年(1184) 宇治川の合戦、重忠は源義経軍に参加。福原の都を攻撃。重忠は源範頼軍に参加。
- 文治元年(1185) 屋島の戦い  
壇ノ浦の戦い、平氏が滅亡する。
- 文治2年(1186) 源義経の恋人・静御前が鶴岡八幡宮で舞い、重忠は銅拍子を打って伴奏する。
- 文治3年(1187) 源義経が奥州に逃れ、藤原氏を頼る。
- 文治5年(1189) 奥州合戦に出陣、重忠は先陣をつとめる。奥州藤原氏が滅亡する。
- 建久元年(1190) 源頼朝が京都に向かい後白河院にあう。重忠は頼朝の京都入りの先陣をつとめる。
- 建久3年(1192) 源頼朝が征夷大將軍に任命される。鎌倉永福寺を創建する。重忠が庭池の大石を運ぶ。
- 建久4年(1193) 富士野の巻狩りを行う。曾我兄弟の仇討ち事件が起きる。
- 建久6年(1195) 源頼朝が京都を経て奈良に向かう。再建した東大寺で大仏の開眼供養に出席する。重忠も付き従う。
- 建久9年(1198) 源頼朝が相模川に架けた橋供養に参加する。
- 正治元年(1199) 源頼朝が死去する。
- 建仁2年(1202) 源頼家が2代將軍になる。
- 建仁3年(1203) 源実朝が3代將軍になる。
- 元久2年(1205) 重忠の息子・重保が稲毛重成に呼ばれ、鎌倉で討たれる。重忠が130騎余りで鎌倉に向かう途中に二俣川付近で幕府軍と遭遇し、討たれる。

愛され続ける旭の名将

# 畠山重忠



愛され続ける旭の名将

# 畠山重忠

## 木曾義仲の恋人・巴御前と戦った？

源頼朝は後白河法皇の要請で、鎌倉から京都へ軍勢を派遣します。この時の京都周辺での戦いから、福原攻め、壇ノ浦合戦とつづく一連の戦いを「源平合戦」といい、畠山重忠にかかわる多くのエピソードが生まれています。

重忠は、京都をめぐる戦いでは源義経軍に属し、また平氏の都・福原攻めでは源範頼軍に属したようですが、この2つの戦いの合間に京都三条河原で敵将・木曾義仲の恋人で武勇に優れた巴御前と遭遇し、逃れる巴御前を追って鎧の袖を引きちぎったと言います。

さらに逃れた巴御前は、後に鎌倉に至って和田義盛の妻となり、朝夷奈義秀を産んだという物語も派生しています。

